



# あけぼの

発行  
西区人権尊重連絡会議  
(事務局)  
西区生涯学習推進課  
(☎895-7026) (FAX882-2137)

## 令和五年度「西区人権を考える」 トーク&コンサート

### 「みんなちがって、みんないい生き方を」 〜金子みすゞの心ととも〜

講師 **ちひろさん**



7月27日に西市民センターにおいて、シンガーソングライターのちひろさんをお招きし、トーク&コンサートの人権講演会を開催しました。

講演テーマは、ちひろさんのライフワークともいえる『みんなちがって、みんないい生き方を』金子みすゞの心ととも。金子みすゞの詩に自ら曲を付けた歌と、詩にまつわるお話を中心に全国各地で講演をなさっています。西市民センターでは、令和元年以来で二度目の講演となりました。

令和5年は、金子みすゞ生誕120年、詩人デビュー100周年という節目の年。26歳という若さで天逝するまでの7年間で512編もの詩を残しております。

若くして逝った金子みすゞが、なぜこんなにも深いまなざしを持つ人になっていったのか…。

講演は、ちひろさんの歌とお話で「金子みすゞの心の旅に思いを馳せる」90分となりました。

オープニング曲の「大漁」に始まり、「こだまでせうか」の朗読を交えて本編では全9曲を披露されました。

東日本大震災の翌年から5年間通い続けた被災地での「復興応援コンサート」では学びを得たと語られました。被災地の女性の笑顔に出会い思ったそうです。「人は、笑顔の奥にいろんな人生を抱えて生きていくんだ。私はこれからの出会いの中で、相手の醸し出す雰囲気や笑顔の奥に、その方が歩んで来られた人生を感じられる人間になりたい、そう思うようになった」と。

「人の一番の偉せは、人と人のふれあいなんだ」「自分の役割を懸命に生きれば必ず喜びとして返ってくる」と。

その女性との出会いは、ちひろさんにとって大きな転機となったそうです。

なかでも「私と小鳥と鈴と」は、ちひろさんの思い入れが一番強い曲です。

ちひろさんは、この日一番の思いを込め、サビの部分を手話とともに「私と小鳥と鈴と」を熱唱、皆さんもそれに手話で応えると、会場全体が何とも言えない温かな雰囲気になりました。

そして、最後の曲マザーテレサの言葉を歌にした「メッセージ」の後、割れんばかりの拍手で感動の90分が終了しました。

金子みすゞの心の旅。それは、ちひろさんの歌声とともに、今を生きる私たちの中でずっと続きます。

**【参加者の感想】**

○素晴らしい詩と歌、そしてちひろさんの暖かい笑顔、優しい話し方に癒されました。また、見えないものに思いを寄せることの大切さを感じました。相手の事を思いやる気持ちを忘れないようにしなければ、と思いました。

○一つ一つの言葉が心に沁みて、優しさで温かさで勇気をもらう事が出来ました。言葉には力がありますね。だからこそ、言葉を大切にしたい。自分の自分でありたいと思いた。

○優しさの中に強さがあること、それが金子みすゞさんの詩に大人が深く感じる所以です。「みんなちがって、みんないい」子どもにも分かる優しい言葉の中にある深い意味が歌になる事で、非常に印象が残りました。手話で表現されたのも良かったと思います。

○詩を通し、人権の大切さ、人の優しさが伝わってきました。堅苦しい話でなくとも人権に対する理解を深める事が出来ました。

## 第五十二回「人権を尊重する市民の集い」 「出会いこそ、生きる力」

講師 **サヘル・ローズさん**



12月4日に西市民センターにおいて、俳優のサヘル・ローズさんをお招きして、人権を尊重する市民の集いを開催しました。

サヘルさんは、1980年9月から約8年続いたイラク・イラク戦争の最中に孤児になりました。

未来の養父母候補から気に入られようと、4歳の少女は大人の顔色ばかりを窺うような子どもでもでした。しかし、後に養母となるフローラさんとの出会いが7歳の少女の運命を大きく変える事になりました。

フローラさんは、イラクにおける養子縁組のルール(当時①結婚していること、②子どもが産めないこと、③経済的に養育が可能なこと)を満たすために、自ら子どもが産めない身体となる手術を受けてまでしてサヘルさんを養子に迎え入れました。

そして、8歳の時日本へ。義理のお父さんと3人での生活が始まりました。しかし、ほどなくしてお父さんの虐待から逃れるため、フローラさんと2人、家を飛び出し路上生活を始めることとなりました。

その後は、まさに「出会いこそ、生きる力」。色々な人に助けられながら親子2人で生き抜いていきます。中学3年のある日、いじめを苦に自殺を思い立った瞬間が訪れます。その時の事を次のように語りました。「フローラは今まで私に心配を掛けてはいけい、弱いところを見せてはいけない、と必死に働いてきた。そんな彼女の痩せて疲れ果てた姿を見た時、苦しみ悩んでいるのは自分だけではないのだ。私は、彼女のおかげで生きているのに心の底から、ありがとう、と言ったことがなかった。

お母さん、ありがとう…。

そう言った瞬間、私たちは本当の親子になれた。そして、それは生きる意味を見つけた瞬間でもあった」と。

最後に伝えたい思いとして、次のように語りました。

「普通とは何か。自分にとっての普通は、必ずしも他人にとっての普通ではない。人には欠点があつて当たり前なのに人を否定しようとする。人は、それぞれ違っていて当たり前なのに人を否定してしまう。否定は差別に繋がります、攻撃が始まる。人を攻撃する言葉は、最終的にブーメランとして自分に返ってくる」と。「世界

には、当たり前と呼べるものは何一つない。生きたくても生きられない人々がいるのが現実。心の貧困や自己肯定感が薄いとされるこの時代で一番大切なことは、自分自身を見つめ、愛すること。そして嫌われる勇気を持つこと。そうすれば心にゆとりが生まれ、人に対して優しくなれる」と。

実体験に基づく言葉の一つ一つが、強く優しく心に響き、感動の講演会となりました。

**【参加者の感想】**

○サヘルローズさんは、一度お会いしてみたい方です。このような機会を頂き本当に感謝しています。見て見ぬふり、知っているのに行動しない自分の姿を反省しました。今後の生き方を深く考えていきます。

○母から授かった命の大切さを感じ、この先何があるとも掛けず生きて行こうと思えました。人は見かけによらないもの、人生には色々な事がある。とても良い講演会でした。

○自身の過酷な経験と、そこから得られた考えをしっかりと話して頂き、大変感動しました。まさに出会いこそ、生きる力だと感じました。

○今回の講演会に参加できて本当に良かったな、と思います。当たり前の日常の中に小さな幸せはたくさんあるのだな、と感じることができました。

○涙が止まりません。大切な事は自分を愛すること、感謝すること。サヘルさんに出逢えて良かったです。周りの人、自分を大切に、幸せに、生きていきます。

# 令和5年度入選作品(西区内)

毎年12月の人権尊重週間にあわせて、福岡市が募集した標語やポスターのうち、西区内の入選作品を紹介します。



西都小学校 5年 福浦 遥香さん



玄洋小学校 6年 耳田 美夕日さん



吉岐小学校 2年 春田 琉天さん



福重小学校 2年 新谷 南奈さん



愛宕小学校 4年 江見 百加さん



福重小学校 5年 青柳 紘斗さん



福岡女子高等学校 1年 木下 陽良莉さん

気づきたい  
君の心の  
その傷に

内浜中学校 1年 田中 麻妃さん

あたたかい  
きみの勇気で  
すくわれる

石丸小学校 5年 能美 潤也さん

やめようよ  
その一言を  
言う勇氣

姪浜中学校 3年 上田 梨紗さん

みんなある  
生まれもつての  
宝物

内浜中学校 3年 ムルツ 武頼按さん

## 人権が尊重されるまちづくりをめざして

「一人一人の人権を尊重し認め合う、差別のない明るく住みよい地域づくりを目指して」

下山門校区人権尊重推進協議会

下山門校区人権協会は、家庭・地域・職場が一体となり、人権の学習や研修を通して誰もが幸せに暮らせる町づくりを目指して昭和61年に発足しました。

例年、年2回の人権講演会、委員研修会、フィールドワークなどの活動と人権標語(下山門小学校6年生)・絵画(下山門中学校美術部)の募集と、優秀作品を取り入れた啓発グッズの作成配布等を行っています。

令和5年度は、フィールドワークを4年ぶりに再開し、北九州平和のまちミュージアムを視察しました。また、人権標語の立て看板や横断幕を作製し各町に設置しています。

色々な人が様々な立場で人権協活動に触れることで、人権意識を高め、思いやりのある温かな地域になるよう今後も楽しく取り組みたいと思います。



「一人一人が大切にされる人権のまちづくりをめざして」  
「今こそ、手をつなごう・支え合おう・未来を創ろう」

城原校区人権尊重推進協議会

城原校区人権協では、「第28回校区人権のつどい」を11月に開催し、マザーアース人権啓発研究所の山口裕之主宰と城ノ原人権のまちづくり館の平山浩司館長に「人権全般と同和問題について」心に響くご講演をいただきました。

夏の人権フィールドワークでは、「福岡大空襲から、人権と平和を考える」をテーマに中央区簗子地区を訪れ、命の尊さと平和の大切さを考えさせられました。

町別人権研修では、「老いを生きる」をテーマにDVD鑑賞や意見交換会で認知症介護体験談の情報共有を行い、有意義な学習ができました。

また、城原小学校・西陵中学校から募集した人権標語は、公民館だよりに一年間を通して掲載するなどして、地域住民の方々の人権への理解を深めています。

今後、地域の特性や多様性に向き合い、更なる人権協の活性化を推進していきます。



### 編集後記

令和4年度福岡市が実施した「人権問題に関する市民意識調査」では、前回調査(平成29年度)と比較して「人権が尊重されている」と回答した方の割合が4.7%増加し、55.9%となりました。西区人権尊重連絡会議は、これからも人と人とのつながりを大切に、差別のない明るいまちづくりのため、皆様とともに精一杯取り組みを進めてまいります。